

アクサHD

フューチャーリスクレポート2024日本語版

リスクに対する脆弱性の感覚高まる

アクサ・ホールディングス・ジャパンは3月14日、アクサグループが発表した最新の「フューチャーリスクレポート2024」の日本語版を発行した。同レポートは、50カ国以上（ヨーロッパ、米国、アジア太平洋地域）の約3000人の専門家および約1万9000人の一般市民を対象に、25種類のリスクに関する認識を測定し、その調査結果をまとめたもの。調査はイプソス社とのパートナーシップのもとに実施され、収集したデータはアクサグループのリスク・マネジメント専門チームによって分析されている。

今回のレポートでは、社会が直面する複合危機（ポリクライシス）に焦点を当てている。気候変動やサイバーセキュリティ、エネルギーなどのリスクは以前よりもリスクに對して脆弱になっている」と確信していることが明らかになった。このような状況において、保

AIの誤情報も新たな脅威に

スクは継続しながら深刻化し、日常生活にも影響を及ぼしている。また、日常生活において、人々のリスクに対する脆弱性（ぜいじゃく）の感覚はこれまでになく高まっている。調査結果によれば、専門家の87%が「世界は以前よりもリスクに對して脆弱になっている」と確信していることが明らかになった。このように、専門家と72%の一般市民が同様の意見を持っていることが同レポートで示されている。

地球環境学を専門とする奈良教育大学ESD・SDGｓセンター副センター長の及川幸彦准教授は、リスクランキングトップの「気候変動」の項について、「フューチャーリスクの中でも常にトップにランクされ続けているのが気候変動である。現在は地球沸騰化と呼ばれるほど深刻化しており、単に気温上昇にとどまらず、災害の増大や海洋の温暖化による海水面上昇、生物多様性の喪失を加速させている。これらが食料や水の不足による飢餓を引き起こし、さらには感染症や戦争・紛争をも生み出している。気候変動への対策は、まさに人類の存亡をかけた戦いである」と述べている。

さらに、人工知能（AI）による誤情報も新たな脅威になりつつあり、誤情報の拡散に伴うリスクはかつてないほど高まっている。2024年には世界各地で数多くの選挙が行われ、誤情報の拡散によるリスクの増加傾向がさらに顕著になった。本レポートでは、この現象に対する認識の高まりと、一人ひとりが自らの脆弱性を理解することの難しさが強調されている。

アクサグループのトーマス・フベルCEOは、「11年連続で『フューチャーリスクレポート』を紹介できることを誇りに思う。これまでの年月において、本レポートはアクサの顧客、代理店やビジネスパートナー、すべてのステークホルダーにとっての指標となり、リスクを予測し、防止し、軽減するための支援を行うという当社のコミットメントを示してきた」と述べている。